

奄美地域における遺跡発掘調査情報の共有化 —『全国遺跡報告総覧』の活用—

橋本達也

Communalization of Information on Archaeological Excavations in the Amami Area: Practical Use of “Comprehensive Database of Archaeological Site Reports in Japan”

HASHIMOTO Tatsuya

鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

要旨

奄美地域では近年、喜界島の城久遺跡群、徳之島のカムイヤキ古窯跡群など全国的に注目される遺跡の発掘調査成果が蓄積されている。その調査成果は、各自治体が発行する発掘調査報告書の刊行をもって公表されているが、部数が少なく入手も容易でない。その状況を改善するために、2015年度から（独法）奈良文化財研究所が運用しているWEB上の報告書公開システム『全国遺跡報告総覧』において、報告書を公開するための取り組みをはじめた。これによって遺跡発掘情報を広く共有化できるようになる。

はじめに

奄美地域では近年、多くの遺跡の発掘調査が行われており、とくに古代～中世の喜界島の城久遺跡群、徳之島のカムイヤキ古窯跡群などは日本史を語る上での重要遺跡として全国的な考古学・文献史研究者から注目を集めている。また、徳之島の縄文時代遺跡、沖永良部島の近世墓など新たな成果もあり、琉球列島の多様な考古資料への注目は高まっている。

一般に遺跡の発掘調査で得られた基礎的な学術情報は、調査主体となる各自治体が発掘調査報告書の刊行をもって公表されているが、その刊行部数は多くなく、ほとんどが限られた主要な研究機関・図書館等にしか所蔵されていない。そのため、研究者であっても個人での閲覧利用には相当なハードルがある。

これをWEB上で公開できれば、いつでもどこからでもアクセスすることが可能となり、より広い地域や他分野の研究者も容易に閲覧が可能となり、研究の活性化に資するとともに、各自治体側にとっても広く成果をアピールする機会となる。

方法

2008年度～2014年度まで、国立大学附属図書館が中心となり、国立情報学研究所の支援を受けて、各地域の遺跡発掘調査報告書をWEB公開するシステム『遺跡資料リポジトリ』が構築されてきた。これによって全国で遺跡発掘調査報告書の公開への取り組みが進められてきたが、鹿児島県に関しては鹿児島大学附属図書館がこのプロジェクトへ不参加を決定したために、その情報公開の後進地の一つとなっている。

とくに離島の発掘調査で得られた学術情報は従来の印刷物を基本とする情報公開のなかでは、そのアクセスの方法に困難を伴うことが多く、むしろ鹿児島県のような地域ではWEBを利用した情報の共有化を積極的に進める必要があり、現状の改善が必要であった。

従来の『遺跡資料リポジトリ』は、2015年度からその運営主体が（独法）奈良文化財研究所に引き継がれ、あらたに『全国遺跡報告総覧』として利用可能となった。そのなかで、従来の大学附属図書館中心の運営から、より広いシステムへの参加が呼びかけられている。

そこで今回、まずは『全国遺跡報告総覧』事務局に鹿児島大学総合研究博物館として参加の申込みを行うとともに、奄美地区でとくに重要な遺跡の発掘調査報告書を刊行している喜界町教育委員会、伊仙町教育委員会、知名町教育委員会と調整を行い、報告書のWEB公開の承諾を得て、総合研究博物館においてアルバイトを雇用し、基礎情報の入力、PDFデータのアップロードを経て、順次WEB公開をはじめた。『全国遺跡報告総覧』のサイトから利用可能である。

結果と考察

今回の取り組みによって、注目される学術資料情報でありながら、一般に利用が難しい遺跡発掘調査報告書をWEB上で公開し、より多くの人が手軽に奄美の歴史文化に関する調査・研究、教育に利用できる基盤的な環境を多少なりとも整備することができたと考える。とくに、古代史・中世史研究者には広く利用されることが予測される。

ただし、いまだ奄美地域の発掘調査報告書は他の自治体からも多数刊行されており、そのアクセスの困難なものが多い。今後ともさらなるデータの追加が必要であると考えている。

参照

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 全国遺跡報告総覧

<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja>